



恵庭市立図書館

新千歳空港から JR エアポートライナーで札幌に向かって走ると恵庭(えにわ)駅に停車します。札幌からだとも30分もかからずに到着します。

しかし恵庭市立図書館(本館)へ行くには恵庭駅で下車すると、かなり遠回りになります。恵み野駅が最寄り。ここは各駅しか停車しないので、札幌からライナーに乗車したら北広島駅で、新千歳空港からなら恵庭駅で各駅に乗り換える必要があります。恵み野駅から徒歩なら20分ぐらい。市営循環バス「えにわコミュニティバス」だと駅から5分ほどで図書館前に到着します。

この市営バスが市内津々浦々運行しており、私は恵庭に行くとき必ずお世話になっています。

人口は約7万人。北にエスコンフィールドのある北広島市。南に新千歳空港と、現在建設している半導体会社ラピダスのある千歳市に挟まれているのが恵庭市。

当館について詳しい方であればどのような実績を残しているかご存知かと思いますが、ご存知でない方もいると思うので、ちらっとご紹介します。

現在の図書館が開館したのは1992年。道内32市で最も遅い開館です。それまでは市民会館図書室で運営していました。

2000年、ブックスタートを実施します。ブックスタートとは、すべての赤ちゃんに絵本を！というスローガンの元、1992年イギリスで始まった保健局と図書館が連携して赤ちゃんに絵本の無料配布や読み聞かせを行う取り組みです。恵庭市は子育て支援センター、市保健センター、図書館が市民ボランティアと連携して事業開始。全国の自治体として東京都杉並区と並んで初。

2003年、恵庭市立図書館が学校図書館を所管にして図書館行政の一元化に踏み切りました。2005年はターニングポイントとなる年かもしれません。市内全ての小学校、中学校に専任学校司書を配置。これは北海道で初！市民ボランティアの普及、校内での朝読、家読(うちどく)を浸透させます。

2013年、全国4例目として「恵庭市人と街を育む読書条例」が施行されました。

2014年、よく国道や高速道路で見かける自治体の境界のサインをカントリーサインというのですが、「読書のまち」「花のまち」をイメージしたデザインとして、少女が恵庭岳を背景に花に囲まれて本を読んでいるデザインに一新しました。

2017年春より、図書館流通センターが指定管理者として運営しています。

図書館天井が吹き抜けになっていて1Fフロアはとても開放的です。

館内あちらこちらに大小の展示を展開しています。季節がら、ガーデニング関連書を大きく

展開。この季節には道内各地の図書館で見かける展示です。

当館の特徴はボランティアとの協働でしょう。現在 22 団体 202 名が登録されているそうです。館内だけでなく市内の幼稚園や学校行事でも活動しています。私が注目しているのは在住外国人ボランティアもいるようで、具体的にどのような活動しているのかもっと取材したいです。

『北海道の図書館員が薦めるブックガイド』(自編著) 恵庭のコラムでは、高齢の男性が道端で倒れた時、見知らぬ高校生が自宅まで送ってくれたそうです。その高校生はこの男性が小学生の頃、ボランティアで読み聞かせしてくれたのを覚えていたのです。心温まるエピソードです。

本年 7 月 2 日より「えにわ移動図書館」が運行開始。車のイラストは絵本作家ヨシタケシンスケさんによる作品。運行している様子を早く見たいです。

そして現在の本館の建て替え計画というニュースも入ってきました。

道内各地の平成初期に完成した図書館の耐震などが劣化してきているので、改修計画の話を目にします。しかし昭和の時代に建てられた町立図書館などはまだ改修計画もない。全道でもう少しバランスを取ることはできないのでしょうか。

恵庭は「本のまち」をキャッチコピーにしています。だからもっと書店が欲しい。長年頑張ってきた岡本書店が昨年 5 月閉店。最近ホームセンターの中に1軒書店が開店しましたが、もっと書店が必要です。独立系書店であるとか、何かカテゴリーに特化した書店も良い。雑誌販売はコンビニが担当すれば良い。図書館員と書店員が常にコミュニケーションを取る環境が必要です。

2025 年 5 月訪問

加藤 重男